

■河合 祐輔（かわい・ゆうすけ） 北海学園大 QB 3年

昨年の道学生選手権で2年ぶり7度目の道学生王者に輝き、東北大と対戦したパインボウルでも、北海道代表として13年ぶりの勝利を飾った北海学園大。連覇を目指す今季のカギを握るのが、負傷もいえて念願の先発の座をつかんだ新司令塔・河合の活躍だ。

ゴールデンベアーズのエースナンバー「2」番を背負いながら、昨季はシーズン前にあばら骨の疲労骨折でリーグ戦の先発を同学年の小笠原文瑠に譲り、チームの快進撃をサイドラインから見守る時間が多かった。「悔しい思いもあったが、仲間なのでバックアップQBの準備をした」と振り返る。

忘れられない試合がある。パインボウルの勝者として関東大学1部リーグの慶応大と対戦したホワイトボウル。新型コロナウイルスのため甲子園ボウルへの挑戦権を争う試合が無くなり、代替として設けられた交流試合だが、北海学園大にとっては40年ぶりの関東との公式戦対決だった。選手層の差もあり、試合は序盤から劣勢を強いられたが、0-42で迎えた第3Q。小笠原に代わって河合の出番が回ってきた。自陣47ヤードからエースWR佐藤玲太、RB山本遼太、TE稲葉海斗へ立て続けにパスを通し、敵陣7ヤードまで攻め込んだ。TDを狙った一投は残念ながらインターセプトされたが、「パスの学園」の意地を見せるシリーズだった。

「緊張せずにプレーできた。相手のラッシュは分かっていたので、練習した通りのイメージを当てはめてプレーした」と振り返る。インターセプトの場面も「レシーバーがボールをはじいたところを奪われたが、レシーバーは責められない。それより、自分たちのプレーが通用した自信の方が大きい」と収穫を強調する。

中学では野球部だが、高校時代は札幌市内のボクシングジムに通った異色の経歴を持つ。アメフトは、新入生歓迎会で部の雰囲気と目指す目標にあこがれて入部。「格好が良く、投げるのも自信があった」とQBを志望した。

「今年は3年生なのでチームの中心になりたい。プレーでチームを引っ張りたい。北海道で優勝し、東北にも勝ち、もう一度関東に挑戦したい」と目標も明確だ。「やっぱりパスプレーがかぎになる。スピード、コントロール、タイミングすべてに磨きをかける」と開幕を見据えた。



【プロフィール】

2000年6月27日、札幌生まれ。経済学部地域経済学科。札幌第一高出身。173センチ、70キロ。